

## ○大事な論点先送りの国会

臨時国会も残すところ1か月となりました。これまでも議論してきた、集团的自衛権、消費税率引き上げ、TPPの決着についての関連法案は出されることなく、議論は先送りとなっています。安倍政権としては、不利な話題を避けて、地方創生と女性の社会進出を目玉として掲げてアピールしていこうということです。

私たちが考える地方創生とは、中小企業を中心に新しい企業家が地方で商売を起こし、雇用を創出できる環境が整うこと。その基盤を作るのが国の役割です。地方には人材もいれば、余剰資本もあります。

しかしアベノミクスのやっていることは真逆です。円安によるコスト高と、国際的な市場で活躍する大手企業(国際企業)が金融緩和によってさらなる海外投資を進めていることから、地方の空洞化が再び加速しています。資金と雇用は、国内に投資されず海外に流出しており、地方からエネルギーが吸い上げられている状況です。地方の企業環境を壊しているのがアベノミクスです。

女性の社会進出についての考え方にも問題があります。出産育児で途絶えてしまいがちな女性の職場を継続できる企業の中の環境整備、保育、特に0歳児から3歳児の待機児童解消と、保育ニーズに合わせた柔軟な保育の制度設計。子ども手当など、社会全体で子育てする基盤と、男性も含めたディーセント・ワークの実現で、働くことと同時に、家庭や趣味などにも時間が使えるマルチ人生を送れる環境作りなどなど、女性が自らの個性と能力が発揮できる、自己実現型社会を実現することです。女性の華々しい成功事例を掲げて、経済の活性化には女性の活用が必要というアプローチは、間違っています。ましてや、昨年から私たちが反対して継続審議になっている派遣法の改悪を目論み、一生派遣から抜け出せない状況を作り出そうとしたり、金銭解決で労働者を首にできる法律などを強行に通そうとする政権の姿勢は、この分野でも、掲げるお題目と実際にやろうとすることが真逆であることがはっきりしてきています。

## ○日韓議連総会

日韓議連の総会がソウルで開かれ、参加しました。日本と韓国の議員達が年に一回様々な課題を話し合う貴重な機会になっています。

今回は、議連として、朴槿恵大統領と懇談の機会があり、「いろいろあるだろうが、まずは、安倍総理との会談を

実現することが大切だ。」と伝えました。

韓国の議員は、従軍慰安婦問題にこだわりがあり、私達が日本で意識する以上に、韓国国内の厳しい世論を意識している様子がわかりました。残念なことは、何をすれば解決になるのか、議員の中からは、具体案が出てこないことです。当事者が高齢化しているだけに、議員達の間だけでも具体策を見つける努力を続けていきます。

また、過去の問題だけでなく、これからの日韓で出来ることを具体的に議論したいということが私の思いです。二つのことを積極的に発言しました。一つは、東日本の震災や、セウォル号の沈没など、大災害や事故に対して、日韓の間で事前の協力体制を話し合っておくことが、将来のアジア全体の防災協力の核を作るということになります。もう一つが、ヨーロッパでドイツとフランスが和解を進める中で一つの核となっている施策、共通の歴史教科書です。日本の高3と中3にあたる学年でこの共通歴史教科書を使っています。これからの世代が、ヨーロッパは一つの国になっていく、という前提の歴史観を培っていくことに大きく貢献していると言われていています。日本と韓国では、未だ共通の歴史観を持つことには程遠い位置にあります。しかし、お互いが何を考えるか、複眼的に耳を傾ける努力は、将来の真の和解の基本です。少なくとも、お互いが、相手の教科書で共通の歴史をどのように説明しているか、それぞれの言葉に訳して副読本として使い、青少年の相互理解の糸口としようとして提案しました。韓国側にも前向きにとらえられ、日韓の共同声明にこの提案が取り上げられました。具体策を引き続きつめて、実現したいと思います。

## ○やっぱり女性議員は大事

女性の議員を増やすためにクオータ(割り当て)制を推進しようと超党派の議連を立ち上げます。自民党の野田聖子さんや社民党の福島みずほさんなどに推していただき、私が会長をやらせていただくことになりました。北欧のように、女性議員が増えてくれば、生活に即した課題が政治課題となる。そこが将来の日本にとっても大事だと思っています。

## ○政策セミナー@四日市

11月10日(月)午後5時より、四日市都ホテル「伊勢の間」にて恒例の政策セミナーを開催いたします。講師は手嶋龍一氏(外交ジャーナリスト、元NHKワシントン特派員)です。皆様のご来場をお待ちしております。

※政治資金規正法第8条の2に規定する政治資金パーティです